

令和6年度
ホームタウン・デザインPT
最終報告書

令和6年12月23日
ホームタウン・デザインPT

目次

1 提案の概要	P 3
2 取組方針	P 4
3 現状	P 5
4 調査結果	P 6
5 提案施策	P 8
6 提案実現イメージ	P16

1 提案の概要

本PTの目的に鑑み、3つの分野ごとに「ホームタウン」としての姿を提案します。

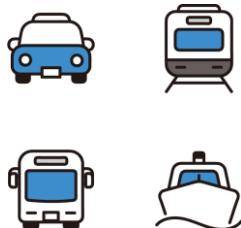
目的

- ◆ J1へのステップアップを担うFC今治のホームタウンとしてふさわしい、交通や観光インフラや、市民によるおもてなしの機運醸成など、**チームと共に持続的成長を実現するSociety5.0時代にふさわしい地域社会のあり方を「ホームタウン・デザイン」として取りまとめるための調査、検討を行う。**

1

交通

スタジアムへ
行きやすいまち



2

観光インフラ

スタジアムから
つながるまち



3

機運醸成

クラブを身近に
感じるまち



2 取組方針

本PTの取組方針は以下のとおりです。

これまで

- スタジアムは「整備フェーズ」
- 財政的支援(間接的なものを含む)
- 様々な支援が個別に点在

スタジアムを核としたまちづくり

継続・発展



これから

- スタジアムは「活用フェーズ」へ
- ソフト面の支援
- 各種計画と融和した体系的で持続可能な支援

『ホームタウン』としての
今治市のあり方

現状整理

- 今治市及びFC今治の目指す姿とこれまでの取組等を整理
- 本PTにおける取組方針を決定

調査・研究

- 他自治体の取組を調査
- 今治市との差分を比較し、今治市としての施策に落とし込み

調整

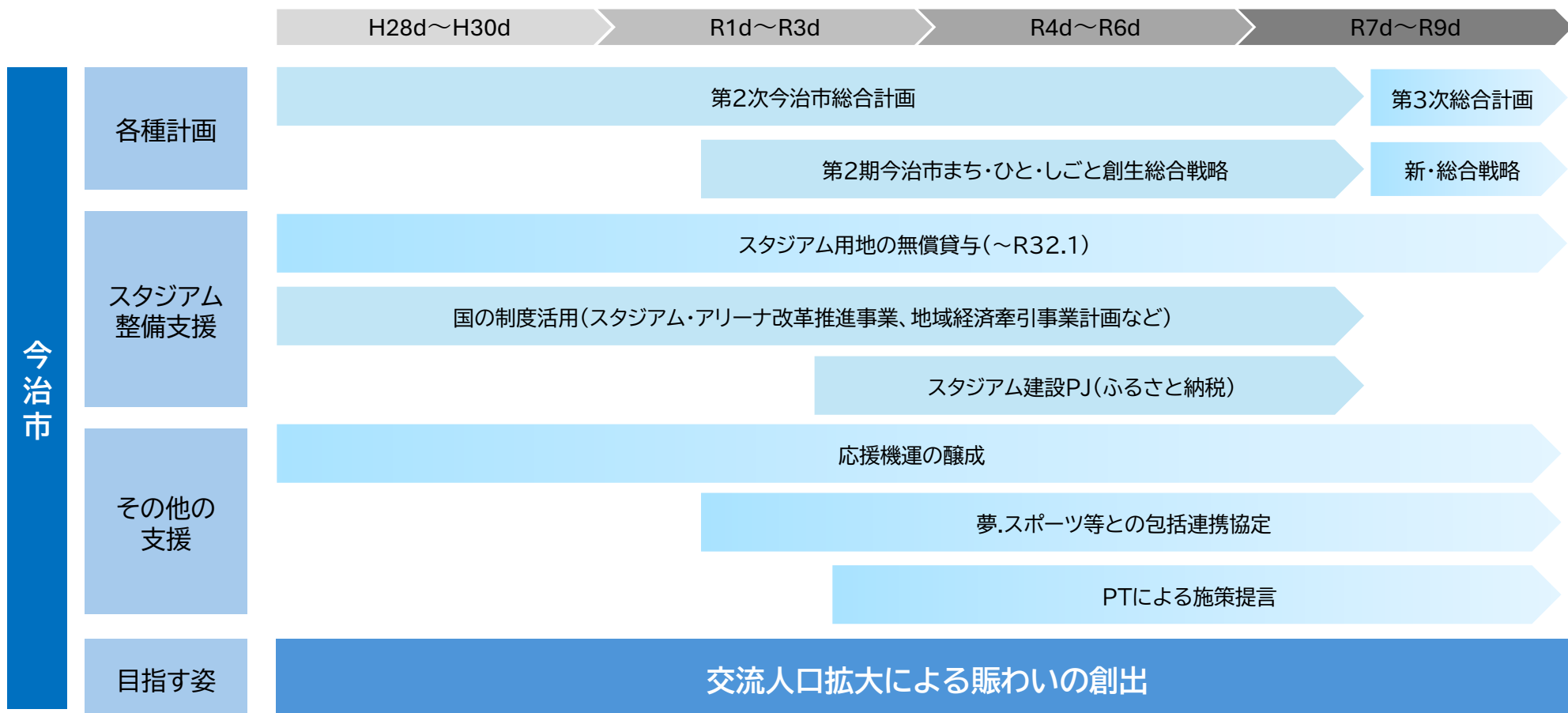
- 施策の推定効果、事業の継続性等を検討
- 施策実現のための費用を可能な範囲で積算

最終成果

- 提案内容を最終報告書(本書)に取りまとめ

3 現状〈これまでの経緯〉

本PTのテーマに関する現状(これまでの経緯)は以下のとおりです。



4.1 調査結果 〈前提条件〉

2023年の観客動員数を基に、調査研究の前提条件を設定しました。

2023年/J1				
No.	クラブ	試合数	入場者数(人)	平均(人)
1	浦和	17	518,648	30,509
2	FC東京	17	499,965	29,410
3	横浜FM	17	471,164	27,716
16	鳥栖	17	173,924	10,231
17	福岡	17	166,025	9,766
18	横浜FC	17	155,184	9,128

2023年/J2				
No.	クラブ	試合数	入場者数(人)	平均(人)
1	清水	21	302,254	14,393
2	仙台	21	235,521	11,215
13	熊本	21	131,842	6,278
14	徳島	21	125,491	5,976
15	栃木	21	122,511	5,834
16	山口	21	92,552	4,407
21	藤枝	21	66,048	3,145
22	秋田	21	65,912	3,139

- FC今治の2023年入場者数(J3)は平均3,711人
- J2で上位になると1万人超(※主にJ1経験クラブ)
- J1だと下位チームでも1万人程度
- 2024年ルヴァンカップの今治vs神戸で5,097人

⇒ まずはJ2中位(5～6千人)に照準を合わせて”まちの姿”を考える



4.2 調査結果 〈他自治体との比較〉

各分野における今治市と他自治体との比較は以下のとおりです。

分野	今治市	他自治体
交通	- 一般駐車場:830台 - 有料直行バス:1台/スタジアム⇒駅 - 路線バス:駅⇄イオンモール今治新都市 - 定額タクシー:試合日のみ - タウンモビリティmobi - 空港リムジンバス:空港⇒駅	- 渋滞緩和及び観戦促進を目的として、バス運賃を補助(利用者は無料とし、事業者へ補助) - 観戦のためのバス賃借代、チケット代を自治会に対し補助
観光インフラ	他のコンテンツとの連携が弱いまたは可視化されていない	- オフライン&オンラインでの観光情報の発信 - 木育施設との連携(スタジアム敷地内に所在) - スタジアム前でのマルシェの開催
機運醸成	- まちぐるみでクラブを応援する体制は発展途上 - 市(役所)の統括的な推進部門が曖昧 - 市(役所)内でのホームゲーム時等の盛り上がりが限定的	- 市主体で「応援隊」を創設(LINE登録制) - 市主体で小学生を対象にスタジアム見学ツアーを実施 - クラブを活用したまちづくりの推進部門を設置 - 市職員が執務中にクラブTシャツを着用

※ 内容は自治体主体の取組でないものも含む

5.1 提案施策の概要

提案施策の概要は以下のとおりです。個別施策の詳細は後述します。

交通

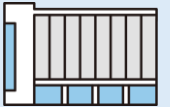
- ① スタジアム往復バス運賃補助
- ② 駐車場シェアリング



▶ 『スタジアムに行くハードル』を下げる

観光インフラ

- ③ おもちゃ美術館との連携
- ④ 子育てひろばハピでの一時預かり
- ⑤ アプリを活用した観光PR



▶ 『スタジアムに行く理由』を増やす

機運醸成

- ⑥ 今治駅構内の装飾(シティ・ドレッシング)
- ⑦ 市の応援体制を強化



▶ 『クラブがそこにあるまち』をつくる

5.2 提案施策詳細 〈交通〉 1/2

『交通』に関する提案施策の詳細は以下のとおりです。

分野	交通
施策	①スタジアム往復バス運賃補助
施策のねらい	『スタジアムに行くハードル』を下げる（観戦誘因と渋滞緩和）
施策の概要	ホームゲーム当日のスタジアム行き路線バスの運賃を無料とし、運賃相当分をバス事業者に補助する
推定効果	スタジアム観戦の利便性が向上し、観戦者の誘因につながるとともに、市内の道路渋滞が緩和される
実施体制、費用等	バス事業者との協議による

5.2 提案施策詳細 〈交通〉 2/2

『交通』に関する提案施策の詳細は以下のとおりです。

分野	交通
施策	②駐車場シェアリング
施策のねらい	駐車場確保、交通渋滞緩和により『スタジアムに行くハードル』を下げる
施策の概要	FC今治、事業者、今治市が連携し、駐車場マッチングサービスの活用によりホームゲーム時の駐車場を確保する
推定効果	- 他自治体実績から、仮に6,000人の観客動員があった場合、約900台の駐車場が必要となるが見込まれる。現在、一般駐車場は830台であるため、不足分をシェアリングにより確保することで駐車場不足による観戦控えを抑止することができる - スタジアム周辺の土地需要が創出されることより遊休地の有効活用にもつながる
実施体制、費用等	- シェアリング事業はFC今治とサービス提供事業者が主体で実施 - 市はクラブ・警察等と渋滞対策協議、SNSなど広報での周知等により協力

5.3 提案施策詳細 〈観光インフラ〉 1/3

『観光インフラ』に関する提案施策の詳細は以下のとおりです。

分野	観光インフラ
施策	③おもちゃ美術館との連携
施策のねらい	スタジアムで滞在できる環境を拡充し、『スタジアムに行く理由』を増やす
施策の概要	令和8年2月予定の美術館開館後、入館券と試合チケットの複合チケットを販売することで、里山エリアの滞留時間を増やし、家族で滞在できる環境を提供する
推定効果	親子で観戦に来た際に、試合のみでなくイオンモール今治新都市で時間を過ごすことができる。または、子連れ世帯で来今し、一方は観戦、また一方は美術館で遊ぶという選択肢もできる
実施体制、費用等	複合チケット販売は、おもちゃ美術館とFC今治両者の調整(FC今治とおもちゃ美術館の連携協定による)

5.3 提案施策詳細 〈観光インフラ〉 2/3

『観光インフラ』に関する提案施策の詳細は以下のとおりです。

分野	観光インフラ					
施策	④子育てひろばハピでの一時預かり					
施策のねらい	スタジアムで滞在できる環境を拡充し、『スタジアムに行く理由』を増やす					
施策の概要	ハピが一時預かりを開始した際に、ホーム戦開催時のみ預かりエリア(人数)を拡大する。保護者が観戦中に一時預かり(1,000円/4H)を行い、預かり人数は限定とし、予約制とする。					
推定効果	観戦に耐えられない子どもたちを預かることで、観戦しやすい環境を整える。観戦者数が増えるとともに、里山エリアの滞在時間が増える					
実施体制、費用等	R7d	246千円	R8d	246千円	R9d	246千円

5.3 提案施策詳細 〈観光インフラ〉 3/3

『観光インフラ』に関する提案施策の詳細は以下のとおりです。

分野	観光インフラ
施策	⑤アプリを活用した観光PR
施策のねらい	試合観戦とあわせてまちを楽しめる情報を発信し、『スタジアムに行く理由』を増やす
施策の概要	FC今治と連携し、アプリを積極的に利用するミレニアル世代を対象に、サッカー観戦を核とした観光プランを発信する (プラン例:「推しクラブ応援旅 愛媛県今治市編」) ※観光プランは市・FC今治・関係団体で協議のうえ作成(外注を含む)することを想定
推定効果	・ アウェイサポーターが来訪する際に、情報収集のハードル低下・情報伝達力の向上が見込まれる ・ サッカー以外の楽しみを提供することで、滞在時間の延長・誘客促進が期待できる ・ 地元住民との交流増加が見込めることから、おもてなしの機運醸成につながる
実施体制、費用等	クラブ及び関係団体との調整による

5.4 個別施策〈機運醸成〉 1/2

『機運醸成』に関する提案施策の詳細は以下のとおりです。

分野	機運醸成
施策	⑥今治駅構内の装飾(シティ・ドレッシング)
施策のねらい	今治駅を「スタジアムの玄関口」と位置付け、より多くの人が『クラブがそこにある』と感じられるまちをつくる
施策の概要	・ 今治駅構内の階段、壁、柱、改札等にクラブ関連のラッピング ・ クラブのスローガンやチームフラッグ、応援幕の装飾 ・ クラブの特設コーナーや情報看板の設置 ・ 今治市で制作するアウェイサポーター向けの今治市をPRするウェルカムボードの設置
推定効果	・ 今治駅にクラブの装飾が加わることで、クラブを身近に感じることができ、FC今治のホームタウンであることのシビックプライドの醸成につながる ・ 駅の装飾による機運醸成から、FCを応援するまちとして、今治市の一つの認知度向上の手段となる。FC今治側もまちの応援機運が高まることで、クラブの雰囲気や熱気の高まりにつながる ・ ウェルカムボードの設置により、アウェイサポーターへの今治市のイベントや観光スポット、文化、グルメ等の魅力のPRにつながる
実施体制、費用等	装飾の調達は市、管理運営は地域や応援団体で行うことを想定

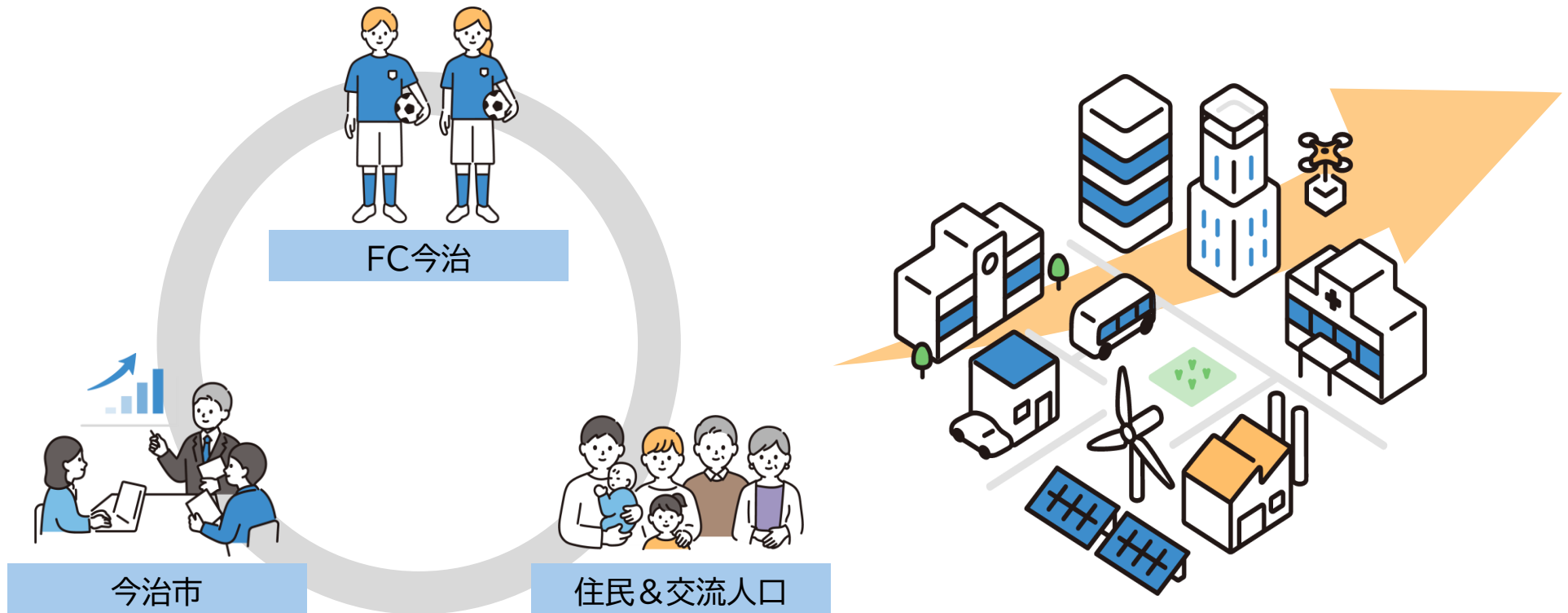
5.4 個別施策〈機運醸成〉 2/2

『機運醸成』に関する提案施策の詳細は以下のとおりです。

分野	機運醸成					
施策	⑦市の応援体制を強化					
施策のねらい	『クラブがそこにあるまち』をつくる					
施策の概要	- 市の応援体制を再整理し、クラブと連携してまちづくりを推進する - 市職員がホームゲーム週の執務中にクラブウェアを着用する					
推定効果	- 市の関係部局間の連携を強化することで、市とクラブ双方が迅速かつ正確な意思疎通が図られ、連携してまちづくりを推進することができる - 庁内及び来庁者の応援機運醸成が図られる					
実施体制、費用等	J2昇格を機に令和7年度に担当係(仮称:里山振興係)を設置					
	R7d	500千円	R8d	500千円	R9d	500千円
	職員用ウェア@5,000円×100枚/年					

6 提案実現イメージ 〈目指すまちの姿〉

提案実現により目指すまちの姿(イメージ)は以下のとおりです。



目指すまちの姿

クラブの成長がまちの成長につながるまち